



毎月各課から届くお知らせや、町内で行われる催しや行事など幅広い情報を分かりやすく効果的に伝えるために重要な編集とレイアウト。行政からのお知らせは内容を把握し、要点を抜き出す作業から始めます。内容を変えずにだけ文字数を減らすことを意識。タイトルを事業名にせず、対象者や申込期限にする。とで自分に必要な情報かどうか瞬時に判断する材料にしています。例えば「介護保険料改定について

自治体が発行する広報紙は、行政からのお知らせという一方通行になりがちです。なかなか手に取ってもらえず、特に若い世代に購読者が少ないのも実態。そこで広報きんこうは斬新な表紙や新聞風紙面、写真をコマ割りした漫画などを定期的に取り入れ中高生でもついで手に取って読みたくなる紙面づくりを心がけています。

「お知らせ」が見出しでは本文を読み進めなければ対象者が分からず、いつから保険料が上がるのかも分かりません。「12月から65歳以上の介護保険料が上がります」と要点を見出しにすることで読み進める必要があるか情報を選択できます。ただでさえ難しいお知らせ内容が行政用語ばかりでは読む気がせず、楽しい出来事の話も魅力は半減。読者目線での文章を意識しています。

読者の目線を意識して読み返す
効果的に伝わる文章に向けた編集

1枚の写真は千文字に匹敵する。 「今」を伝え「未来」に残す写真。

手に取って読んでもらうために惹きつける写真は欠かせません。本文を読んでもらうためにも目を引く写真ができるだけ大きく配置するように心がけています。特に表紙は広報紙の顔。特集と関連付けて興味を持ってもらう一枚を厳選します。1枚の写真は千文字に匹敵すると言われ見る人によってその受け取



り方はさまざま。切り取られた一瞬はまちの「いま」を伝え、その先にはまちの「歴史」として残ります。だからこそ撮影に関して妥協は許されません。失敗しても担当者には次がありませんが、取材を受ける人に次はないかもしれません。そのため撮影や写真選びは細心の注意を払い1枚1枚確認しながら補正して現像します。写真は事実だからこそその説得力があり、さらに永年保存としてまちの姿を後世に残す役割も持ちます。

中高生や若い世代にも広報紙を



広報紙の顔となる表紙はできるだけ錦江町で暮らす「人」に登場してもらいますが、特集内容によっては表紙から特集につなげるためインパクトのある表紙を作ることも。決算特集では特製の通信簿を作り、国勢調査では100年前のポスターを真似ています。切り抜き画像で作るマンガも広報きんこうならではの企画で、幅広く好評を得ています。

DTP導入で経費削減と
自由度の高いレイアウト

パソコン上で原稿を入力し、レイアウト作業を行うDTPを平成30年度に導入したことで印刷以外の全工程を役場内で完結することができるようになりました。校了直前まで最新記事を入れ込むことが可能で、外部委託が減ったことでページ単価は半額以下に抑えられています。写真や見出し、余白やイラストの効果的な配置で本文を読み進めてもらえよう試行錯誤を重ねています。

比較年度	ページ単価	平均ページ	1部単価	発行部数	1冊発行の金額
H29(2017)	4.12円	14ページ	57.68円	4,100部	236,488円
R3(2021)	2.00円	20ページ	40.00円	3,800部	152,000円

パソコン上で原稿の入力から編集、レイアウトなどを行い印刷できる状態にするDTP（Desk Top Publishing = 机上編集）。イメージを外部業者に伝えて作成を委託する従来の方法より自由度が高く、校正回数も減るため制作時間の短縮にも繋がっています。



- 1 企画・構成**
各課の情報収集と行事予定を把握。特集テーマを決めておまかにレイアウト。
- 2 取材・撮影**
行事やイベントの取材を進めながら、特集記事の取材先を検討して依頼します。
- 3 編集・レイアウト**
写真を配置して見出しや本文を考えます。文字量が増えすぎないように注意が必要。
- 4 入稿・校正**
試し刷りを依頼して文字の大きさや写真の色味を確認し、修正を繰り返します。
- 5 印刷・配布**
校了した印刷データを送り3千800部を印刷。自治体会送便で配られます。

広報きんこうの作り方

本文の内容はもちろん重要ですが、見出しや写真配置、余白やフォントなどさまざまな要素を効果的に配置して見やすいレイアウトを試行錯誤します。

